

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ  
シリーズ/NO 162号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期23年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4300日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は295名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## 餅つきを一度も経験したことのない、子育て世代が続出

かつて、年末年始に住宅街のあちこちで開催されていた風物詩「餅つき大会」は、すっかり近年お目にかかれなくなって久しい。

かれこれ7、8年前には必ず年に一回各地区で自治会主催で開催されていた。しかし杵や臼の準備にはじまり、もち米を蒸すせいろやドラム缶を再利用したかまどを用意するための関係者が高齢化しているため中止せざるを得ないためだ。特に杵をつくつき手やもち米の返し手が全く手配出来ないことが中止の大きな原因。そのためガヤチルが主催して、第1回餅つき大会を開催したが、近所の子どもたちや通りすがりの子育て世代の母親をはじめ、親子連れや女子学生を含め約30人程の市民が集まっ

た。ただ、やはり杵や臼は必要なので私が居住する自治会の餅つき大会で借用していた方や農家が自前で使用してきたものを借りようとしたが、すでに廃棄した、との返事。止む無く、レンタルで餅つき道具の一式を注文して当日に臨んだ。

午前8時過ぎから準備に入り、もち米をガヤチルの厨房でむして、広場に設置した臼に落とし込み、杵でまずこねる作業の後、いよいよ降りかぶってペタン、ペタンと何回も杵でつく。返し手が時々もち米をひっくり返す。20回ほどの杵うちで餅が完成。出来上がった餅を台に移して小さくもぎって丸く形を整える。

会場には、BGMで餅つき特集の音楽が流れ雰囲気は最高潮。これに、あんこやきなこ、大根おろしを付けて頬張る。更に豚汁をすすりながら。一斉に美味しい、美味しいの聲が広場からもガヤチルのテーブルからも上がった。

そして、私が一番手のつき手だったが、次々と女子学生に変わり、独身男性と続いた。特に小学生の男の子や女の子が小さな杵でペタン、ペタンと。勿論全員が初めての餅つき。中には何度も、何度も希望する男の子もいて、順番でつこうね、とたしなめる場面も。

ただ、子育て世代の大人の方にも声を掛けたのだが、なんと全員がもちをついた経験がないとの返事だった。世代や地域や性別を超えた共通体験がなくなっている現実がここにあった。

なので来年も定期的を開催します、と最後に宣言した楽しい一日だった。(2月1日・日曜日)

## 市政報告会の会場、選挙のため急遽使用中中止、ライブ配信のみで対応



第10回市政報告会を2月2日に開催した。主催は越谷市議会・議員有志の会(6議員)で、12月市議会の焦点を中心に報告した。当初会場として広く告知していた、越谷市役所1階多目的ホールは、解散総選挙の期日前の(裏へ)

投票会場となったため、変更が余儀なくされた。すぐに代替の会場を探したが見つからず、止む無くガヤチルを会場にライブ配信のみとなった。それでも事前に案内ハガキやチラシ、SNS等で告知していたため変更の対応に開催日ギリギリまで追われた。

当日は、12月市議会の①物価高騰対応②庁内組織改編と職員定数③公共施設の指定管理者の委託契約④特別職（市長・教育長・副市長・議員等）の期末手当引き上げ⑤議会選出の監査委員1名の決定⑥所得税法第56条の廃止を求める市民請願⑦越谷市立病院の経営改善と組織改編についてそれぞれの議員が報告、説明をした。加えて衆議院選挙期間中であり、それぞれの議員が選挙にどう臨むのか発言した。

私は、中道改革連合の政策（綱領）には、原発の再稼働の容認や安保三法制の違憲撤廃、沖縄の辺野古基地建設の容認、とどれもこれまでの立憲民主党の政策を大きく変更するものであり、支持出来ない。同時に今日の物価高、低賃金、将来不安を作り出したのは、戦後80年にわたり政権党であった自民党の責任に他ならない。（わずか3年半の民主党の政権時はあったが、例外的だ）また、この長期政権を支持してきた国民はそれを自覚すべきだ、と発言した。（2月2日・火曜日）

## 解散総選挙、中道の惨敗から何が問われているのか。

2月8日の解散総選挙の投票の結果は、自民党の歴史的な大勝利と野党第一党の中道改革連合の大惨敗に終わった。

中道改革連合は、小選挙で当選したのはわずか7名（全員かつての希望の党所属）で全体では49名と内閣不信任案を単独で出せない勢力に落ち込んだ。勝負では、勝に不思議あり、負けに不思議なし、と言われていたが、立憲民主党はまともな選挙の総括をしたことがない。

すで昨年7月の参議院選挙では、惨敗していたにも拘わらずその事実に向き合わず、当然だが総括も型どおりに過ぎなかった。その延長線での今回の衆議院選挙であれば、負けるべくして負けたのだが、これほどの惨敗でも何時もの通りの反省や総括しか出て来ない。

勿論、運動、政策、中道の理念等の総括や今後の方針など総括は必要だろう。

しかし、私もこれまで自治体選挙ではあるが、

4回も落選し、次の選挙までの4年間を生活費や活動費をどうやって工面するのか苦しみ続けた過去がある。落選した130名もの候補者が次回選挙までどの様に財政的に支えていくのか、党としての最大の喫緊の課題だが、依然として何も聞こえて来ない。自民党は各小選挙区支部長には、月額活動資金として100万円が党本部から支給されている。立憲民主党は月額50万円だ。捲土重来のため、2月9日早朝から駅立ちを続けている落選者がいる。

野田佳彦前中道改革連合代表のまず何よりも実行すべきことは、この月50万円（本来なら自民党並みに100万円が当然なのだが）の支給を確保する事が責任を取る最大の役割なはずだ。負けたから辞任します、では数百人もの人間の生末を破壊した責任の取り方としては何とも軽いものだ、（最もその程度の政治家でしか、もともとなかったのだが）50万×12か月×130人×4年間＝30億円。これを準備するため、党は勿論、場合によって野田議員が個人で借金する覚悟こそが責任の取り方だろう。また、落選した候補者は自分の選挙区の市民50人から月額1万円を献金してもらえ活動を開始することだ。それが成功すれば党本部からの50万円と地力の50万円で100万円となる。その上最も近い支持者50人を日常的に確保出来る。逆に言えばこの活動を出来ない候補者は次回も落選するだろう。政治家は、まさに日常普段に所属する政党や政策に関係なく支持者を作ることを最も求められている。ましてや衆議院議員は権力闘争の当事者なのだから自身を規律化することは、当然でありまた市民もこの様な活動に共感してともに苦難の道を歩むことを引き受けるべきだろう。（2月9日・月曜日）

## 名前を言わずに、何をやっているんだ、と、早朝からどなる男性

今朝の駅立ちは、新越谷駅東口。午前7時頃、片手に缶ビールの中年男性が、おまえ何をやっている？はい市政レポートを配布しています。だから何をやっている名前も言わずに、としつこい。名前など一度も言ったことはありませんが、と。それでも納得しないのでここにいて下さい、警察官を呼んで来ますからと。近くの交番に向いたが早朝のため留守。だが案の定戻って来たらもういない。（2月19日・木曜日）